

2016年1月17日(日)朝10:10~
1月第3共同主日礼拝式説教

降誕節第4、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**神の真理のための共働者**

聖書：Ⅲヨハネ 1章1～8節

＜口語訳＞

新約聖書383頁

Ⅲヨハネ 1章1～8節

＜新共同訳＞

新約聖書449頁

Ⅲヨハネ 1章1～8節

＜新改訳第3版＞

新約聖書473頁

Ⅲヨハネ 1章1～8節＜塚本訳＞

新約聖書771頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ **Ⅲヨハネ書**は、**Ⅰヨハネ書**や**Ⅱヨハネ書**と違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式をとっています。

◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや**4節**の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**による**牧会的公的書簡**として、**神の教会**で大事にされてきました。

◇ **Ⅲヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で用いられていた**ガイオ**へ「**彼が、神の真理に立って歩んでいる**」ことを**喜び**、「**旅人をもてなしている善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**が**認め**られています。

⇒「**神の真理のための共働者**」として「**ガイオ**」の役目は、今日の教会でも大事です。

⇒「**共働者・同労者**スンエルゴス $\sigma\upsilon\nu\epsilon\rho\gamma\acute{o}\varsigma$ 」は、「**神の真理のための労働・奉仕**」を共有しているということで、**神の教会の長老ヨハネの心**を喜ばせたのですが、それだけ、「**兄弟愛**」を大事にしてくれる**神の教会の奉仕者**が、少なかったことを推測させます。

⇔これも、今日、変わりのない事実です。

本論；

◇本日、Ⅲヨハネ書1章1～8節から主の使信に思い・心をとめます。

◆Ⅲヨハネ1章1～4節；ヨハネは、ガイオが、神の真理に従って、神信仰の歩みをしていることを喜んでいます。

◇1節；塚本訳◆挨拶

「1 長老(ヨハネ)から愛するガイオへ(手紙をおくる)。わたしは真理をもってあなたを愛している」

◇2～8節；塚本訳◆ガイオの旅人接待

「2 愛する者よ、あなたの霊のことがうまく行っているように、何事もうまく行き、また健康であれかしと、願っている。

3 というのは、兄弟たちが(ここに)来て、あなたが真理に立っていること、(すなわち、)いかに真理を歩いているかを証してくれたので、わたしは非常に喜んだのである。

4 わたしには、自分の子供たちが真理を歩いていると聞く以上の大きな喜びはない」と、ヨハネは語ります。

◇1節；「長老(ヨハネ)」から「愛するガイオ」へ「わたしは真理をもってあなたを愛している」と、ヨハネは語りかけています。

⇒「わたしは真理をもってあなたを愛している」と「兄弟愛」の共有ができる「神の教会に仕えるガイオ」への愛が、「満ち溢れています」。

◇2～4節；「あなたの霊のことがうまく行っているように、何事もうまく行き、また健康であれかしと、願っている」、「兄弟たちが(ここに)来て」、あなたが「真理を歩いている」と、「証ししてくれた」ので、「大きな喜び」を感じていると、ヨハネは、語りかけています。

⇒ヨハネは、「兄弟たちが(ここに)来て」、「証ししてくれた」と、言っていますので、「ガイオ」が仕えている神の教会を訪ね、「旅人接待」に与った「巡回伝道者たち」の証言を聞いたのではと、推測されています。

⇒Ⅱヨハネ書1～6節で、「神からの真理」を知る者たちに「教会長老ヨハネ」は、「愛している」と告白した思いをここでも表明します。

⇒「神からの恵みへセド・約束への誠実・忠実」共有が、「神のいのち」そのものなのです！

◆ Ⅲヨハネ1章5～8節 ;ヨハネは、ガイオに神の真理に従って奉仕する人々の旅人接待を継続することを願っています。

◇ 2～8節 ;塚本訳◆ガイオの旅人接待

「5 愛する者よ、あなたがこれを兄弟たちに、しかも旅人に対してすることは、忠実に義務を果しているのである。

6 この人たちは(あちこちの)集会であなたの愛を証した。あなたが、彼らを神に仕える者らしく(愛と献身とをもって)見送るのは、善いことをするのである。

7 というのは、彼らは(キリストの)御名のために(伝道に)出かけたので、異教人からは、なにも貰わないのである。

8 だからわたし達はこのような人々を、もてなす義務がある。わたし達も真理のために、共働者となるためである」と、ヨハネは語ります。

◇ 5～6節 ;「愛する者よ、あなたがこれを兄弟たちに、しかも旅人に対してすること」は、「忠実に義務を果している」と、先ずヨハネは語りかけています。

◇7～8節；「この人たちは(あちこちの)集会であなたの愛を証した」。「彼らを神に仕える者らしく(愛と献身とをもって)見送るのは、善いことをする」で、「彼らは(キリストの)御名のために(伝道に)出かけ」、「異教人からは、なにも貰わない」、だから「わたし達は」、彼らを「もてなす義務がある」、わたしたちが「真理のための共働者となるため」であると、ヨハネは語っているのです。

⇒「わたしは真理をもってあなたを愛している」と「兄弟愛」の共有ができる「神の教会に仕えるガイオ」への愛が、「満ち溢れています」。

⇒そして、ヨハネは、神の愛からガイオに対して、「異教人からは、なにも貰わない」で、「彼らは(キリストの)御名のために(伝道に)出かけた(巡回伝道者)」を「もてなす義務がある」とし、それによって、「真理のための共働者となる」のだと、ヨハネは、ガイオに書簡で神の教会長老のメッセージを贈ったのです。

⇒使徒パウロも、天幕作りをしつゝ伝道しましたが、ピリピ教会の愛のささげものは受け、彼自身とエルサレム教会のため用いました。

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **Ⅲヨハネ書**は、**Iヨハネ書**や**Ⅱヨハネ書**と違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式をとっています。
- ◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや**4節**の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**による**牧会的公的書簡**として、**神の教会**で大事にされてきました。
- ◇ **Ⅲヨハネ書 1章 1～8節**は、**神の教会**で用いられていた**ガイオ**へ「**彼が、神の真理に立って歩んでいる**」ことを**喜び**、「**旅人をもてなしている善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**が認められています。
- ⇒ **神信仰に忠実に生きたガイオ**は、「**神の真理のため**」、「**神の真理に歩んだ兄弟たち(巡回伝道者たち)に、旅人接待**」の「**忠実な義務を果していた**」のです。
- ⇒ ですから、**ガイオの旅人接待**を「**もてなす義務がある**」とさえ語り、「**神からの真理のための共働者・同労者**」とされる者となるように語りかけることができたのです。